

■パブリックコメントに対する意見の内容及び市の考え方

- 意見募集の期間 平成 24 年 8 月 10 日（金）から平成 24 年 9 月 12 日（水）まで
- 意見を提出された方 4 名
- 意見数 11 件（1 名の方で複数の意見の場合を含む）

番号	市民意見の概要	市の考え方	左記に基づく 都市マス本編の修正箇所
1	将来都市構造（図）について西今宿東条線と県道名古屋津島線との接続は大治町がポイントですが、大治町では旧甚目寺との行き来に疑問があります。大治町のマスタープランに生活交流軸として、きちんと明記してありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・（都）西今宿東条線については、大治町の都市計画マスタープラン（以下、都市マス）においても生活交通軸として位置づけられており、連携を図っています。 本編では、大治町とのつながりをわかりやすくするため、第 4 章の将来都市構造図の生活交流軸（（都）西今宿東条線）を南に延伸するとともに、大治町役場の位置を記載します。また、第 7 章の東部地域重点施策において、「坂牧東交差点の改良」に大治町へのアクセス向上に関する記述を追加し、地域構造図、重点施策図にも記載します。【P23、60、61、63】 	P23 第 4 章 将来都市構造図 P60 第 7 章 地域構造図 P61 第 7 章 重点施策 P63 第 7 章 重要施策図
2	（都）美和大治線も環状等の道路・交通ネットワークとしての位置づけは非常に重要であると思います。もう少し明確にされては、如何でしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「（都）美和大治線」については、地域別構想（西部地域、南部地域）の地域づくりの方針で「市街地または地域の骨格を成す幹線道路」の一つとして位置づけております。未改良区間については、西部地域、南部地域の重点施策として今後整備を進めていく方針です。【P73、75、85、86】 	—
3	七宝町南部の生活拠点、JR・近鉄蟹江駅になるが、隣接市町との関係をもっと明確に図面に表現すべきではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・蟹江町とのつながりをわかりやすくするため、第 4 章の将来都市構造図、第 5 章の道路・交通に関する方針図、第 9 章の地域構造図、重点施策図に、JR 蟹江駅と当該駅へのアクセス道路 2 路線を記載します。【P23、33、84、86】 	P23 第 4 章 将来都市構造図 P33 第 5 章 道路・交通に関する方針図 P84 第 9 章 地域構造図、 P86 第 9 章 重点施策図

※【 】は都市マス本編の該当ページ

番号	市民意見の概要	市の考え方	左記に基づく 都市マス本編の修正箇所
4	七宝庁舎あたりに、市街化区域拡大の検討とあるが、バイパス沿いと理解していいのか。また、新規公園の整備検討とあるが、七宝庁舎がなくなった場合、跡地も候補に挙げていいのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・南部地域の重点施策図に記載してあるとおり、(都)名古屋津島線(通称、名古屋津島バイパス)沿いに市街化区域拡大の検討を位置づけています。【P86】 ・新規公園の整備については、市街化区域の拡大の検討と合わせ、候補地の検討をしていきます。【P86】 	—
5	<p>七宝町の北部に居住していますので西部地域に関する意見です。</p> <p>① 先ず、都マスの中に総合庁舎と学校教育の項目が除かれています。</p> <p>総合庁舎は、本年7月に甚目寺佐織線の七宝地内を候補地とする報告書が提出されたと市のHPに掲載がありました。行政の拠点としてマスタープランに反映すべきと思います。</p> <p>また、特に宝小学校では児童数が少子化や通学学区割から非常に少なく学校教育施設の費用対効果から統廃合も検討すべきと考えています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎については、「新市基本計画」及び「あま市本庁舎のあり方に関する報告書」等を踏まえ、第5章のその他都市拠点の整備にて、あま市の位置的中心地である(都)甚目寺佐織線((主)あま愛西線)付近の七宝地内を候補地として検討していくことを記載しております。【P41】 ・また、学校教育に関する部分は、教育委員会が担当しており、あま市立小中学校適正規模等検討委員会の提言を受け、学校の統廃合や通学区域の再編を視野に入れながら方向性を検討していきます。【なし】 	—
6	<p>② 西部地域は多くが市街化調整区域に含まれています。</p> <p>①の総合庁舎整備については土地取得に抵触する事柄が少なくないと思います。法律、制度等は役所の縦割りでは解決できない難問や制度の落とし穴があるので深い見識と当局との調整が必要と考えます。</p> <p>農地の保全と開発区域のバランスは地域住民の意見を反映した土地利用の検討が重要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎については、「新市基本計画」及び「あま市本庁舎のあり方に関する報告書」等を踏まえ、市街化調整区域での整備の実現性も含めた検討を進めているところです。【P41】 ・農地の保全と開発区域のバランスについて、西部地域では、木田駅周辺を街なか居住拠点と位置づけ、これを中心として、都市的土地利用を集約化していく方針です。そのため、市街化調整区域は、無秩序な市街化を抑制し、農地を保全していく方針ですが、幹線道路沿道や七宝駅周辺など利便性が高い場所については、都市的土地利用としての活用を検討します。その際には、地域の意見も取り入れながら進めていきたいと考えております。【P24】 	—

※【 】は都市マス本編の該当ページ

番号	市民意見の概要	市の考え方	左記に基づく 都市マス本編の修正箇所
7	<p>③ 七宝駅周辺での新たな居住拠点整備の検討</p> <p>鉄道高架化の検討をする基目寺地区から連続し七宝蟹江線を横断することは、言葉では簡単に表記されていますが、地元でこれまで整備できなかった経緯や旧町の土地利用構想における道路との交差方法等関係機関との調整を踏まえ果たして検討することが可能か疑問です。</p>	<p>・(都)七宝蟹江線は、道路が鉄道の上部を通る立体交差で都市計画決定されています。</p> <p>また、七宝駅周辺の新たな居住拠点整備は、土地所有者を始めとする、地区の皆様との合意形成が図られることがその前提となりますので、協働の街づくりとして地域の皆様方とともに進めていきたいと考えております。</p> <p>【P61～63】</p>	-
8	<p>④ 水路の親水空間整備</p> <p>新規採択された事業と七宝駅とアートヴィレッジを結ぶ歩行者ネットワークの形成とあります。沖之島環境保全会の活動内容目標との統合が必要であり、七宝駅の整備、市街化調整区域内を通る散歩道を形成することで豊かな景観も創出できます。図の中では2か所の引き出し線でしか表現されておらず、七宝駅を降りどのように親水地区を経由してアートヴィレッジへ至るのか。ルートを(案)としてでも破線等で図示していただくとイメージが湧くと思います。何の整備計画のない沖之島地区ではこの5か年計画の水・環境整備が唯一であり、地元意識を盛り上げるためにも目で見てわかりやすいものとなれば幸いです。</p>	<p>・ご意見を踏まえ、第8章の地域構造図、重点施策図に、七宝駅からアートヴィレッジを結ぶ親水性のある散策ルートを追加します。</p> <p>【P72、75】</p>	<p>P72 第8章 地域構造図</p> <p>P75 第8章 重点施策図</p>

※【 】は都市マス本編の該当ページ

番号	市民意見の概要	市の考え方	左記に基づく 都市マス本編の修正箇所
9	<p>⑤ 新規整備より既存施設として河川等の高度利用 宮田用水、篠田悪水が管理する水路・通路や福田川の堤防施設を散歩道、親水施設として趣のある整備をすれば、整備費用の軽減や身近な緑とゆとりがある町として満足感が芽生える。除草費用に見合うようなアスファルト舗装化が実現できれば散歩路として利用できるの、各機関の予算措置等それぞれのメリットを生かせるように調整されることを希望します。</p>	<p>・あま市内では、宮田用水の管理水路の大江川沿いで二ツ寺親水公園が整備されています。また、篠田悪水が管理する水路では沖之島地区で管理用道路を整備し散歩路としての利用を予定しています。今後、既存の用悪水路や整備済みの河川につきましても、関係機関と協力し親水施設としての整備を検討していきます。 【P35】</p>	—
10	<p>あま市の都市計画に関する基本的方針に「市役所本庁舎移転」の計画が組み込まれるべきだと考える。</p>	<p>・番号5と重複しますが、新庁舎については、「新市基本計画」及び「あま市本庁舎のあり方に関する報告書」等を踏まえ、第5章のその他都市拠点の整備にて、あま市の位置的中心地である（都）甚目寺佐織線（（主）あま愛西線）付近の七宝地内を候補地として検討していくことを記載しております。【P41】</p>	—
11	<p>蜂須賀小六と福島正則を輩出した蜂須賀地区と正則地区も、歴史・文化拠点とするべきだと思う。</p>	<p>・甚目寺観音、七宝焼アートヴィレッジ、萱津神社一帯については、その資源・施設の規模、集積度などの面からあま市を代表する「歴史・文化拠点」として位置づけました。ご意見をいただきました、蜂須賀地区と正則地区につきましては、地域別構想において、「身近な交流拠点」として位置づけ、地域の交流の場として育成していくとしております。 【P21、22、71】</p>	—

※【 】は都市マス本編の該当ページ